

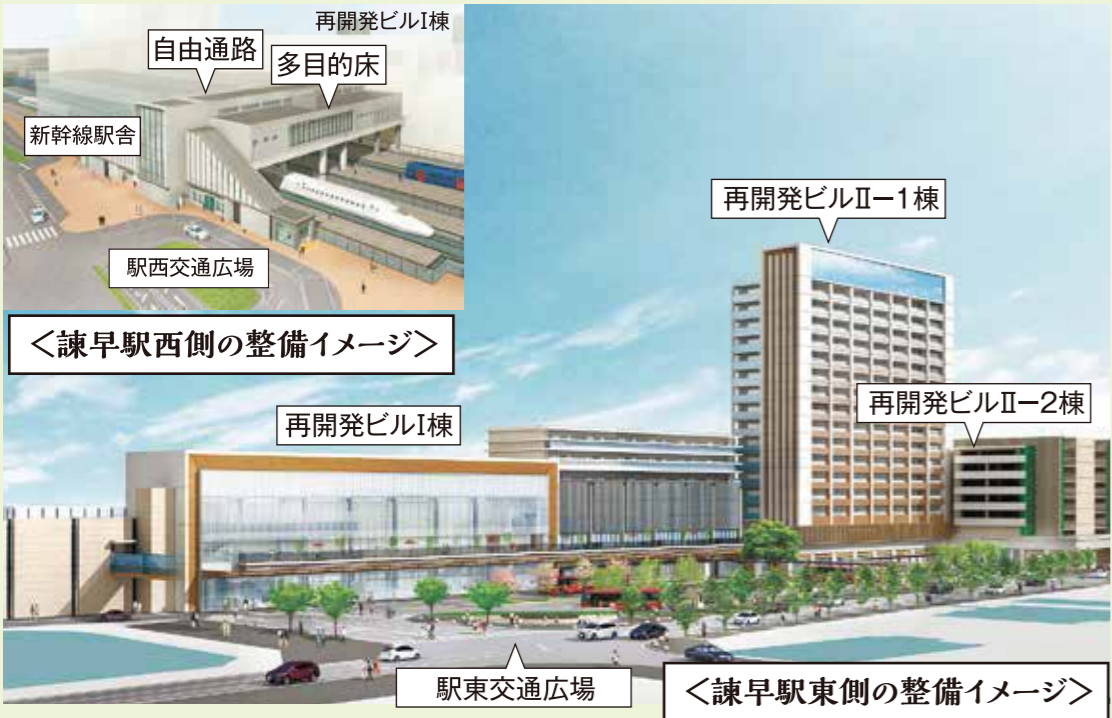
新幹線開業に 向けたまちづくり

長崎県は、海、山に囲まれた美しい自然や、古くから海外と交流した歴史に裏打ちされた異国情緒あふれる特色ある文化が形成されており、世界遺産などの多くの観光資源を有しております。しかし、近年は人口減少等の課題に直面しており、新幹線開業を契機とした賑わいの創出が求められているところです。

九州新幹線西九州ルートは、平成34年度の開業に向けて整備が進められており、特に新幹線駅ができる長崎、諫早、大村の3市においては、新幹線開業の効果を最大限に活かすために、駅周辺のまちづくりを進めています。今回は、その3市の取り組みについてご紹介します。



「往来する人々が心躍る、賑わいとおもてなし空間」



島原半島3市を含む約30万人の玄関口として、交通結節機能強化と交流人口拡大による活性化を図るため、市街地再開発事業を核とした駅周辺整備を行っています。

再開発ビルI棟II棟、駅東西交通広場、自由通路などを整備し、開業が予定されている九州新幹線西九州ルートに対応したまちづくりを進めて参ります。

諫早駅



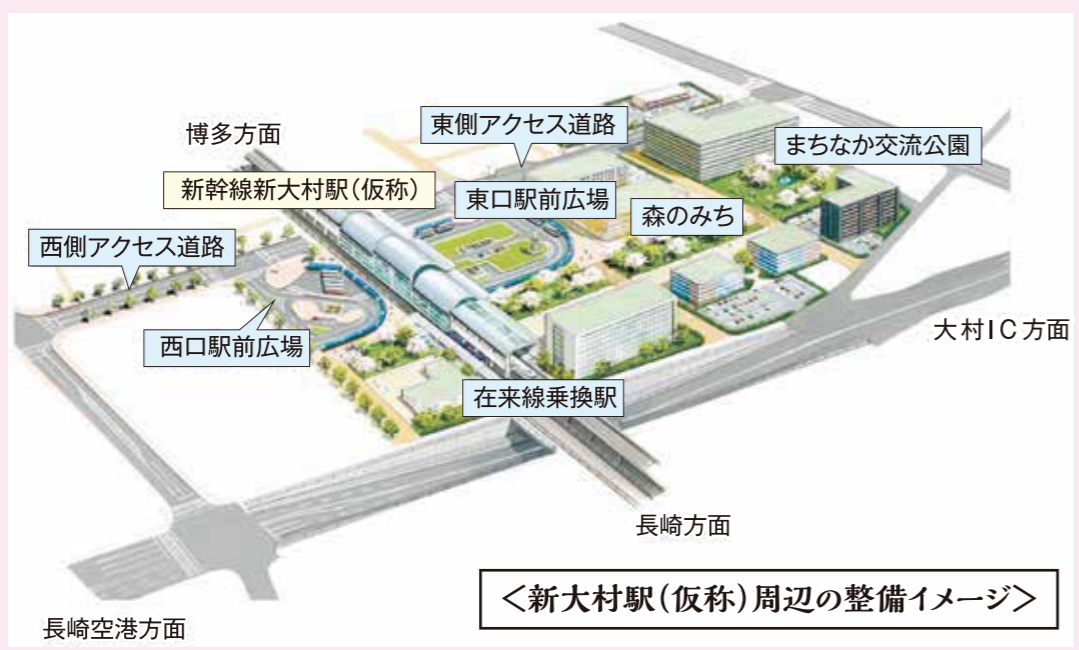
諫早駅東地区第二種市街地再開発事業をはじめとした駅周辺整備事業全般に携っています。年間約490万人に利用される駅の周辺整備にあたっては、安全管理と工程管理を徹底しながら、平成34年度開業を見据えた新幹線建設工事と一体的に整備を行って参ります。

諫早市 建設部 駅周辺再開発課 諫原 肇

大村市では、新大村駅（仮称）を中心とした交通結節点としての機能の充実や利便性の向上を図るため、新駅周辺の整備を行います。また、アジアのゲートウェイとしての役割が期待される長崎空港との連携により、県央の高速交通拠点としての機能を強化してまいります。

さらに、駅利用者だけでなく、住民が気軽に集える場になるよう「交流拠点」としても整備を進めます。

「花と緑に囲まれた駅づくり・拠点づくり」



新大村駅（仮称）



「市民・来訪者の交流・にぎわい空間となる 長崎の新たな陸の玄関口の形成」

長崎駅周辺では、九州新幹線西九州ルート建設や在来線の高架化などにより、駅周辺のまちなみが変わったり、踏切による交通渋滞が解消されるなど、新しいまちづくりが進んでいきます。

新幹線・在来線双方が乗り入れる日本唯一の頭端駅、また、世界にも類を見ない海に開かれた駅という特徴を活かして国際文化都市長崎の玄関口にふさわしいまちづくりを目指します。



長崎駅



新大村駅（仮称）周辺については、土地区画整理事業で整備を予定しており、今年度は事業認可に向けた手続き等を進めています。これから本格的に事業がスタートしますが、住民の皆様のご理解とご協力を頂きながら、新たな交流拠点となる新幹線駅を中心とした『まちづくり』を進めていきたいと思ひます。

大村市 都市整備部 都市計画課 新幹線まちづくり推進室 進藤 拓也



駅前広場の設計や駅周辺の工事の担当をしています。駅周辺の整備は、市民の方の関心が高く、大変だと感じることがありますが、100年に一度といわれるこの大きなプロジェクトに携われることを誇りに思いながら、楽しく仕事をしていきたいと思ひます。

長崎市 まちづくり部 長崎駅周辺整備室 川並 亮太